

ドイツの哲学者カントは、「人間は教育によってのみ人間となる」と言っています。人間の社会はなぜ教育を必要とするのでしょうか。子どもをどういう大人にすべく、子育て・教育をしているのでしょうか。また当の生徒諸君は、何を目指して学校生活を送っているのか。どうなりたいと、今まで学んできたのか。今日の前の学習やクラブ活動や学校の諸行事に真剣に取り組んだ後に、どうなると考えているのか。進路を考えるのは、それを通して何を実現したいのか。

先日ある生徒に「二十年後にあなたは、まわりからどんな人と言われたいですか」と問うと、「頼りにされる、感謝される、そういう人になりたい」と答えてくれました。「それなら、現在の生活を振り返って、今やっているこのことは目標に自分を近づけることになるのかどうか、また目標実現のためにしっかりと勉強しないと、と考えながら学校生活を送らねばなりませんね」というお話しをしました。

私たちの人生の目的は、一つは自分の成長ですね。成長して満足のいく人生を送りたい。つまり自己実現です。自分のなりたい状態になっていく。生涯かけても成し遂げたいことを実現する。人生のあらゆる出会いはすべて自分の成長につながりますが、その成長がどういう目的に向かうのかがはつきりすると、毎日の生活の中の一つ一つが、目的実現へのステップになります。朝ご飯をしつかり食べることも、しっかりと良い睡眠をとることも、嫌いなことや辛いことをやるのも、夢の実現につながります。

人生の目的のもう一つは、他者への貢献のために成長したいということではないですか。私たちの毎日の生活は、膨大な数の人々の居場所に払う家賃である」とは、モハメド・アリの言葉ですが、できる範囲でお互いに助け合うことで、私たちの生活は成り立っています。よく勉強し、よく体を鍛え、良い人間関係を築き、よく社会を知ることが他者へのより良い貢献につながります。あなたはどんな貢献ができるでしょうか。

「はたらく」とは、「はたを楽にすること」だと言われますが、基本的に、仕事とは人に喜んでほしい、豊かで気持ちよい生活を支えるはたらきです。その恩恵として、地位、名誉、お金、仲間などいろんな形で返ってくるわけです。さまざまな仕事は、そのようにして成立しています。医療も福祉も製造も販売もサービスも運送も金融も情報通信も建設も水産も農林業も、本来受け手が求めるものやことを満たし、その報酬を得るわけです。中でも教師という仕事は、まさに関わる他者(生徒)への貢献ですね。そしてそれは、「ありがとうございます」の一言で報われます。

他者のためにといいながら、自分の人生を疎かにしていたら、それは本物ではありません。自分の人生に満足を与えることは必要です。また他者に貢献しない自己実現ということもないでしょう。

仏教の歴史を振り返ると、自分の救いのためにひたむきに修行する出家者に対して、自他共に救われたいという大乘仏教運動が起こってきました。「大乘」とは、文字通り「迷いの世界(此岸)から覚りの世界(彼岸)へ渡してくれる大きな乗り物」の意味です。自ら理想を目指して精進し続けながら、他の一切の救いを願い、そのために精進する。「自利他円満」といいます。自分一人だけが救われても、それは本当の救いにはならないと考えるのです。他のすべての人が救われてはじめて、自らの救いが実現するという教えです。「自利他」は、現代の言葉で言えば「自己実現」と「他者貢献」でしょう。自分を納得のいくところまで高めていく。そして同時にそのことは、他者から喜んでもらえる、頼りにされる、感謝される。「ありがとうございます」と言える人生が、他者から「ありがとうございます」と言われる人生だったらいいですね。